

# 「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」と 連携の事例



2023年3月20日

ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム (MOWLS) 説明会  
～「青森県で協力したい」をつなぐ～

公益財団法人 キューピーみらいたまご財団事務局

1. キューピーみらいたまご財団
2. 財団の活動
3. 子ども食堂の活動実態
4. 企業と子ども食堂支援
5. MOWLSの特徴と仕組み



## キューピーの社会活動のキーワードは「子ども」「食育」

### ベルマーク運動

1960年から実施。  
教育設備助成に協力



### 工場見学

1961年から実施。  
小学校からの社会科見学  
要請がきっかけ



### 講演会活動

1984年から実施。  
食生活と健康についての  
正しい情報の提供が目的



### マヨネーズ教室

2002年から実施。  
食の楽しさと大切さを  
伝えることが目的



## キューピーのサステナビリティ目標

(2019年1月発表)

### 子どもの心と体の健康支援

2030年までに、グループの食育活動などで接する  
子どもの笑顔の数を、100万人以上にする

(2019年からの累計；2021年度までで22.4万人)

### 社会への貢献価値を 定量的に測る指標

- ・健康寿命延伸への貢献
- ・資源の有効活用と持続可能な調達
- ・CO2排出削減
- ・**子どもの心と体の健康支援**
- ・ダイバーシティの推進

# 1. キューピーみらいたまご財団② 財団の設立と運営



助成対象

「子ども」を対象とする**食育活動、食の居場所づくり活動**

設立

2017年4月（2019年4月から公益財団法人）

設立の背景

2016年頃から子どもの貧困が社会問題化

↓

キューピーが行ってきた食育等の取り組みを継続、進展させるだけでなく、想いを共有しうる団体の活動を広範に支援し**一企業だけでは成し得ない社会活動**に繋げていきたい

食の大切さを伝え、  
食の力で子どもの未来を支える

運営資金

キューピーの株の配当金

- ・150万株（有利発行して財団に交付された株式）
- ・配当金であれば、会社の業績に左右されにくい

助成事業実績

約480団体、約1億6000万円（2017年度～2022年度）

# 1. キューピーみらいたまご財団③ グループや社員との関わり



## 社員による子ども食堂 ボランティア応援



グループ商品の寄贈



## 財団イベントへの従業員参加 (助成授与式交流会)



## 支店の活動団体での寄贈 商品の荷受け応援作業

## 2023年度選考準備委員



## 中四国支店長からの 助成証書授与

## 2. 財団の活動① 助成プログラム



プログラム		助成額	プログラム内容	助成内容
A	食育活動支援	100万円まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所での食育活動、産前産後ケアも支援</li> <li>・活動の自己評価あり</li> </ul>	食育活動としての講座、イベント、研究に関わる経費 (居場所づくりに関わる費用は対象外)
B	食を通じた居場所づくり支援	70万円まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援対象は体験、経験の貧困対策</li> <li>・会食等の場を提供する活動であること</li> <li>・過半数が子どもを重視</li> </ul>	拠点改修費、備品購入費、環境整備費 (食材費、団体スタッフ人件費、家賃などは対象外)
	スタートアップ助成	一律20万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年以内の団体の立ち上げ支援</li> </ul>	備品購入費、食材費、団体スタッフ人件費など
【特別助成】 新型コロナ禍対応		一律20万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援対象は経済的貧困状態の子どもを支える弁当配布などの活動</li> <li>・アウトリーチ活動を伴っていることを重視</li> </ul>	食材費、消耗品費、輸送費

## 2. 財団の活動② 助成団体数、金額

プログラム		2023年度		(参考) 2022年度	
		団体数	助成額 (千円)	団体数	助成額 (千円)
A	食育活動支援	25	11,870	26	12,330
B	食を通じた居場所づくり支援	30	15,270	25	12,190
	スタートアップ助成	29	5,800	29	5,800
【特別助成】 新型コロナ禍対応		66	13,200	51	10,200
合計		150	46,140	131	40,520
物品助成	子ども食堂などにマヨネーズ、パスタソース、ジャムなどをMOW様運営のMOWLSを通じて寄贈			約 2000	8,000



## 2. 財団の活動③ 選考プロセス

10月24日～11月21日 応募期間

第1回選考準備委員会

第2回選考準備委員会

選考委員会にて審議

理事会で最終承認

3月1日 ホームページで助成団体公表

4月14日 助成証書授与式

『食』の課題解決に向けて  
2023年度  
助成団体募集について

受付期間:2022年10月24日(月)正午～2022年11月21日(月)正午



『食』の課題解決に向けて  
2023年度  
助成団体が決定いたしました

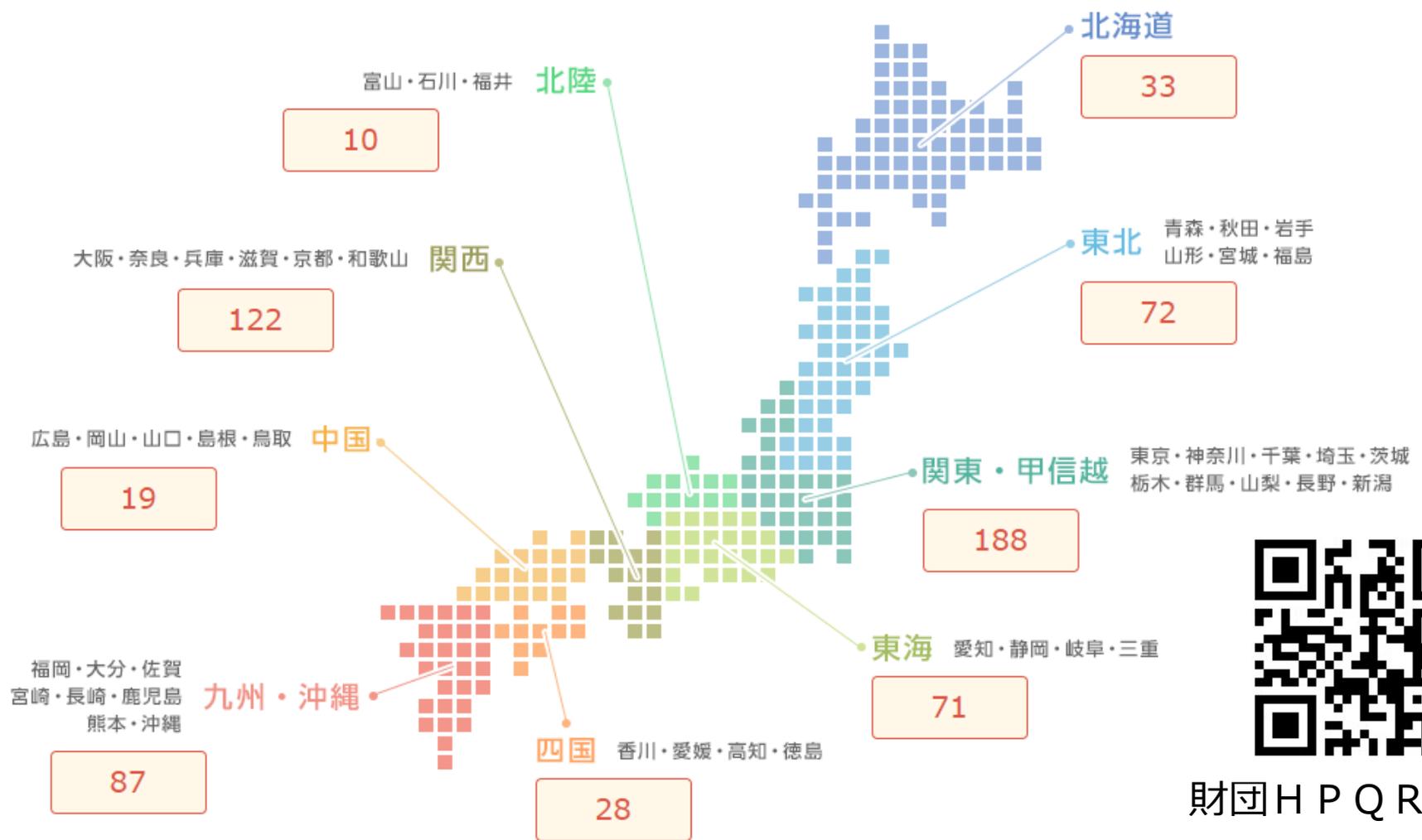


# 2. 財団の活動④ 助成実績



年度を選ぶ: **全年度** ▼

例: < 助成団体数 >



財団HPQRコード

## 十和田市

2020年度 プログラムA

十和田発酵食文化協会

2020年度 新型コロナ禍対応

十和田子ども食堂実行委員会

## 階上町

キューピー階上工場

キューピーたまご青森工場



## 2. 財団の活動⑤ 居場所づくりサミットの開催



講演と事例報告に加え、50分間のオンライン交流会も実施

団体同士の情報交換会の場になっている

財団役員、関係者も加わり、助成事業のヒントも載っている

# 地域の居場所づくりサミット

2022年11月5日(土)  
10:00~12:20



完全オンライン配信

10:00~10:55

第1部

キューピーみらいたまご財団助成説明会

2023年度助成プログラムについて

講演「改めて考える子どもの居場所づくり」

相模女子大学 栄養科学部健康栄養学科 教授

キューピーみらいたまご財団アドバイザー 堤ちはる氏

10:55~12:20

第2部

地域の居場所づくり講座

「子ども食堂だからできること

～食を通じたつながり・見守り・支えあい～」

一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事 平野 覚治

事例報告 ハスノハ子ども食堂 代表 渡辺 和美氏  
グループに分かれた交流会



## 2. 財団の活動⑥ 居場所づくりサミット交流会での学び(例)

コロナ禍3年目となり

- ・DVが増えている
- ・不登校、引きこもりの子ども達が増えている

- ・居場所の必要性が増している
- ・子ども食堂の再開が望まれている

公共施設等ではなく  
「常設の居場所の必要性」を痛感！

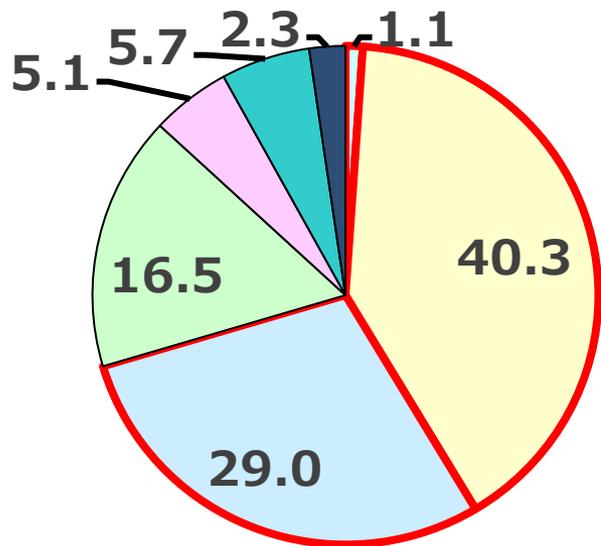
食品宅配などを行うことで、  
子ども達の家庭の事情（ヤング  
ケアラー等）が見えてきた

食堂に来れない子ども達には、  
フードパントリー、弁当配布事業  
も継続したい

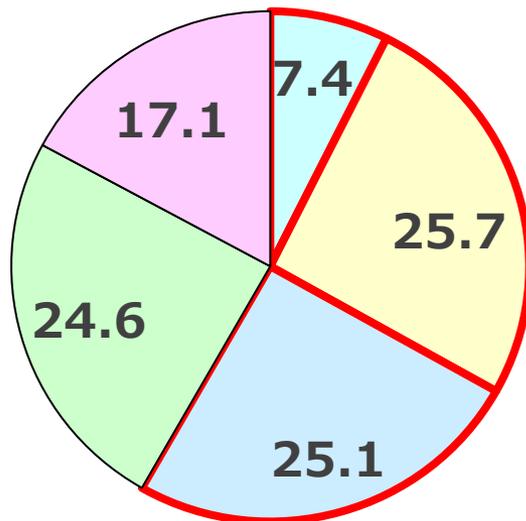
子ども食堂の再開、フード  
パントリー、弁当配布の  
3つを行うには、  
これまで以上に食材、資金、  
場所、人手が必要

# 3. 子ども食堂の活動実態①

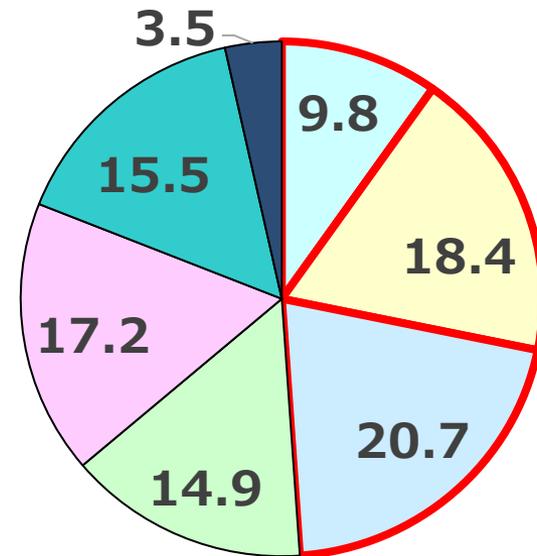
## 活動頻度



## 提供食数



## 活動の年間支出額



- 年に数回程度
- 月に1日程度
- 月に数日
- 週3~4回
- 毎日
- 週1~2回
- 週5~6回

- 9食以下
- 10~29
- 30~49食
- 50~99食
- 100食以上

- なし
- 10万円未満
- 10万円以上30万円未満
- 30万円以上50万円未満
- 50万円以上100万円未満
- 100万円以上500万円未満
- 500万円以上

参考：「2021年度 コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査」の集計結果 (2022.4.15)

一般財団法人全国食支援活動協力会、  
千葉大学人文科学研究院 清水洋行研究室

### 3. 子ども食堂の活動実態②

## 子ども食堂が寄付してほしい食材、食品

	なし	米	肉・魚	野菜・果物	総菜・食材・食品	冷蔵・冷凍の レトルト食品 インスタント食品	調味料	菓子類	飲料	お弁当	その他
寄付してほしい食材、食品	1.8	72.2	71.0	58.6	49.1	44.4	51.5	60.9	60.9	16.0	11.8
もっとも寄付してほしい食材、食品	1.8	27.4	35.7	4.2	6.5	10.1	1.2	6.5	2.4	1.8	2.4

参考：「2021年度 コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査」の集計結果  
(2022.4.15)

一般財団法人全国食支援活動協力会、  
千葉大学人文科学研究院 清水洋行研究室

### 3. 子ども食堂の活動実態③

## 子ども食堂が困っていること

寄付を受ける必要はない	困りごとはない	量が足りない	量が多すぎる	必要な食材・食品の寄付がない (少ない)	保管スペースがない (足りない)	冷凍・冷蔵設備がない (容量不足)	受け取る場所がない	運搬手段がない	寄付に関する情報が 手に入らない	その他
0.0	14.5	15.1	2.8	22.9	50.8	54.7	16.2	14.0	17.3	13.4

参考：「2021年度 コロナ禍における食支援活動の  
現状と食材支援に関する調査」の集計結果  
(2022.4.15)

一般財団法人全国食支援活動協力会、  
千葉大学人文科学研究院 清水洋行研究室

## 4. 企業と子ども食堂支援①

SDGs に取組みたい

寄付などの貧困対策、食品ロスの削減だけでなく、従業員の社会活動参加を拡大したい

子ども食堂支援は最適

- ・子ども食堂は支援しにくい
- ・近隣の団体等の支援にとどまる

活動の実態が見えない

- ・週に1回、月に1、2回の活動で貧困が救えるのか？
- ・見学に行っても貧困でない子どもが来ている
- ・ほとんど子どもが来ていないことがある
- ・食堂の利用料金を取っている

支援の効果測定が難しい

# 子ども食堂を支援するときの課題



全国に約6000あるといわれる子ども食堂に  
食品をどのように送ればよいのか？

- ①生活困窮者を支援している子ども食堂は？ 届け先住所は？
- ②宅急便で送るにせよ、食堂開催日が団体によってまちまち。
- ③寄付したい商品子どもたちは喜んでくれるだろうか？

届けることができたとしても、

- ④商品の特徴、使い方が伝えられて、おいしく召し上がってもらえるか？
- ⑤温度管理の不備で、品質に問題は出ないか？
- ⑥商品が余ったり、賞味期限を過ぎて廃棄されることはないか？
- ⑦子どもたちの反応などを教えてもらうことができるのか？
- ⑧転売されたり、SNSなどで適切でない情報が発信されないか？

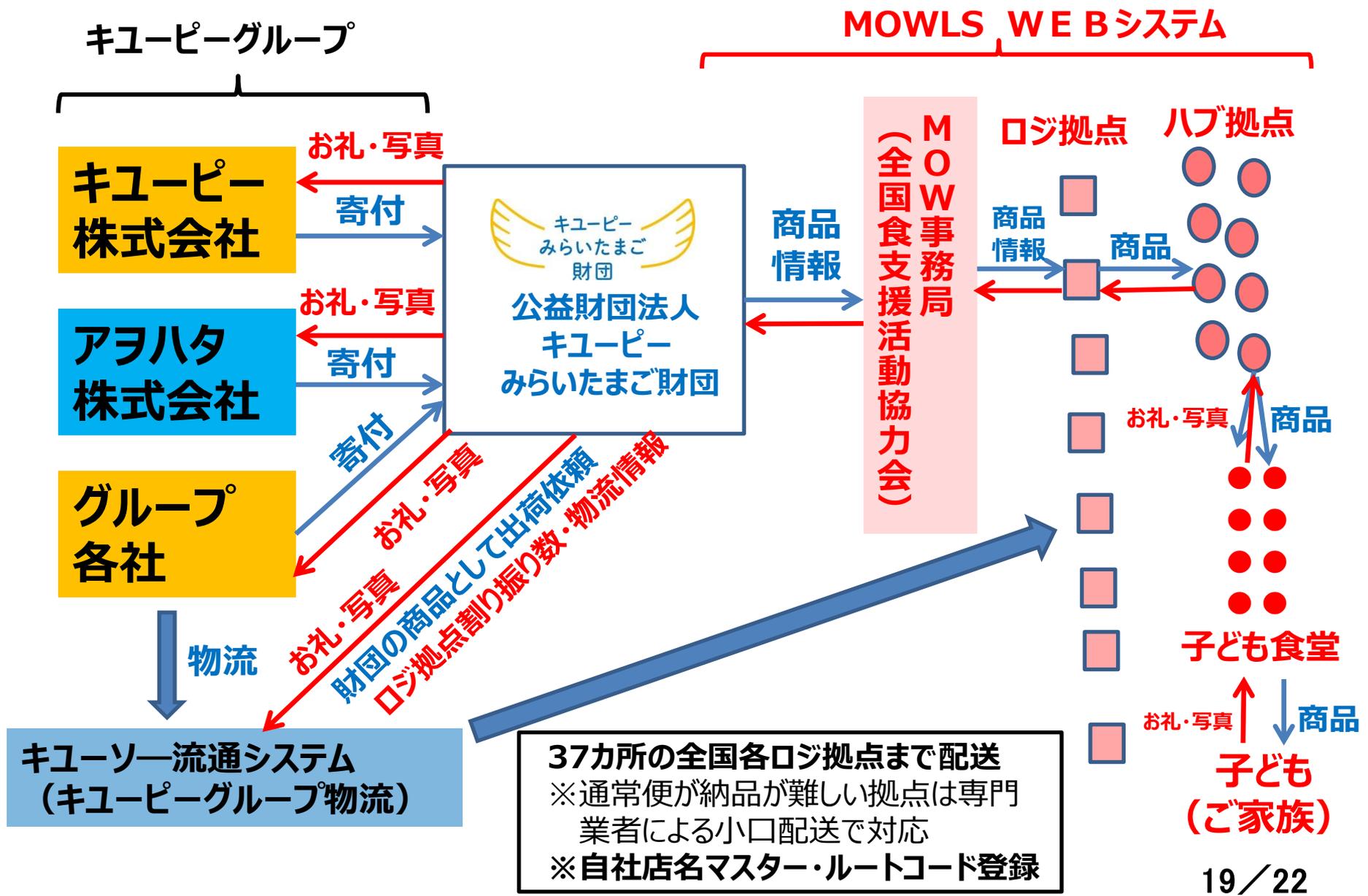
(提供する商品：通常の商品、在庫品など)

## 4. 企業と子ども食堂支援③

MOW（全国食支援活動協力会）様の  
今までにない大規模な食品寄贈プラットフォーム  
「**ミールズ・オン・ホイール・ロジ・システム（MOWLS）**」を  
活用することで、  
全国の子ども食堂への食品支援（寄付）が安心して、  
確実にできます。



# 5. MOWLSの特徴と仕組み①



## 5. MOWLSの特徴と仕組み②

### MOWLSの特徴

- 全国の子ども食堂・子どもの居場所に、確実にスピーディに食品寄付ができる
- 低温度帯（冷蔵、冷凍品）商品の寄贈もできる



### それぞれの企業が得意分野で支援が可能

- 食品関連企業は、食品の寄贈
- 物流企業は、余剰の在庫スペース提供、配送支援
- 全ての企業が
  - ・子ども向け商品の寄贈や運営者への寄付金
  - ・従業員のボラインティア支援  
（商品荷受け作業、子ども食堂へのお届け等）

## 5. MOWLSの特徴と仕組み③

**MOWLSを使って寄付をすると、  
お手紙やメール写真をいただけることもある**



**2022年7月～8月、「キューピーあえる  
パスタソース」72,000個を全国の子ども  
食堂 1,905か所にお届け**

**2021年12月、キューピーハーフ、パスタ  
ソース、冷凍いちご・冷凍りんごなど  
約12万個を全国の子ども食堂約1,800  
か所にお届け**

# ご清聴ありがとうございました

キューピーみらいたまご財団では  
今年も**10月下旬より、2024年度の助成公募を開始します**。子どもを対象とする食育活動、居場所づくりをされている団体さんの申請をお待ちしています。  
→詳細は財団ホームページを御覧ください

